

「課題名：休日に薬剤師が患者面談し持参薬確認および服薬指導を行うこと  
の有用性と課題についての検討」について

○ 研究の意義・目的

休日に薬剤師が持参薬確認および服薬指導を行うことは医療安全の向上に寄与すると考えられます。実際にどのような有用性があるか明らかにするため、今回この研究を計画しました。

○ 研究対象者

2016年9月から2018年9月30日までの期間中の休日に、広島大学病院に入院した患者を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は入院目的、持参薬報告、入院後開始となる内服処方・抗癌剤注射処方です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学病院薬剤部 副部長 佐伯康之

○ 研究期間 2018年〇月〇日（委員会承認後）～ 2020年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

\* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5579

広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰（研究責任者）

薬剤師 真志田 絵美子（担当者）